

祭典の女声合同曲について

山本恵造

「いとごよ」

基本的には楽譜通りに歌って頂ければ大丈夫です。しかしながら楽譜通りのリズムで歌うのは結構難しいです。伴奏のリズム、流れを感じながら歌ってください。東京の「女性のうたごえを成功させる会」から発行されている音源資料に演奏 CDが入っており、それを参考に練習して貰えば分かりやすいです。1番、2番、3番と表現や声の色が大きく変化していきます。1番はお母さんの優しさ、期待と寂しさなど、2番は子供を心配しながらも戦争から守る決意、3番は世界中のお母さんたちと連帯し、平和を呼びかける力強い訴えなどを表現ください。

- *1番、2番の前半はmpで語るように歌ってください。
- *9小節の「わたしをふりかえり」の「ふ」を遅れないようしっかりと言葉を伝えてください。
- *1番、2番の後半の「この両手の重み それは地球の重さ」のフレーズは切らずに繋げてください。また下記の強弱のようにフレーズを感じて歌ってください。

mf mp crescendo
「この両手の重み それは地球の重さ この胸のぬくもり 抱きしめて」

- *転調後の3番の前半はmfで明るく、たっぷりと呼びかけるように歌ってください。
- *3番の42小節からの後半部分はすべてmfで観客に向かって歌い切ってください。
- *49小節「それは」で dim.して、「あい」はmpから crescendo してください。
- *50小節「この両手の重み それは地球の重さ」のアカペラ部はfでたっぷりと歌ってください。
続く「この胸のぬくもり」はmfで優しく歌ってください。
- *53小節「それは」で ritしながらdim.後、休符後の最後の「あい」は fで歌いフレーズの最後に向けてdim.して広がるような感じで歌ってください。
- *1番2番の最後の「それはあい」の「い」の長さが違います。楽譜通りをお願いします。
3番の「あい」の「い」は2小節伸ばしてください。

今まさに憲法9条が改悪されようとしている危機的な状況です。愛しい子供たちを戦場に送らせる事のないよう、母親の深い愛情が平和を守るメッセージとして心に届く演奏を目指しましょう。

「どこかで春が」

厳しい冬を耐え抜き春を迎えようとする逞しい息吹を感じるような明るい声で伸び伸びとした音楽にしたいです。特に大音楽会では闘っている仲間を励ますうたごえになればと願っています。
1番、2番から3番の転調以降は春がまさにやってきた喜びを溢れんばかりの明るさを持って歌い切ってください。